



## 説教要旨「喜びへの方向転換」

ルカによる福音書 24章 28～35節

エルサレムからエマオという村へと向かっていた二人の弟子たちの傍らにイエス様は現れ、一緒に歩みながら、聖書の言葉を説き明かし教えられました。しかし弟子たちは目が遮られていて、それがイエス様だとは気づきませんでした。

それがイエス様だと気付けないながらも、何かしら感じるものがあつたのかもしれません。エマオの村に到着しても、弟子たちはその人を「無理に引き止め」て、夕食を共にします。その席で、イエス様が「パンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった」。するとその時、二人の目が開け、その人がイエス様だと分かったというのです。

私たちはこの弟子たちの様に、目が塞がれたままに、聖書のみ言葉を聞いてはいないでしょうか。イエス様が一緒に歩いてくださることに本当に気付いているでしょうか。気付けないままに聖書を読んではいないでしょうか。頭でっかちになって満足して、素晴らしい恵みに気付けないでいる私たちは、イエス様が分け与えてくださる命のパンを、体全体で味わい、体験していくことによって、目を開かれるのです。

イエス様によって割かれたパンが与えられたとき、弟子たちの目が開かれ、その人がイエス様だと気付くことができたのですが、そのとたん「その姿は見えなく」なつてしまいました。しかしそれは、彼らが再びイエス様を見失ってしまったということではありません。イエス様が復活されて、いまでも共にいて下さることを知らされた彼らは、もはやその姿を直接見る必要がなくなつたのです。

そして、エルサレムを離れ去ろうとしていた彼らは、180度向き直し、エルサレムへと戻っていくのです。そこはもはや、希望を打ち砕かれた“敗北の地”ではありません。イエス様が苦しみを受けることを通して、死の力に打ち勝つ神の救いを実現して下さった、大いなる救いの実現の場となつたのです。彼らはその救いの出来事の中へと、喜びへと方向転換して戻って行つたのです。